

ぼくのことを
すきになってくださいね。

田園発 港行き自転車

かかあまほ
せんせい



2015年 集英社

「Story

出張で九州に行ったはずの賀川直樹は、富山のある駅に自転車を残したまま急死を遂げた。縁もゆかりもないはずの地に彼が向かった目的とは…。

絵本作家の賀川真帆は友人に15年前の父の死について話したことをきっかけに、富山を旅することになる。

亡き父の足跡を辿る中で、今まで出会うことがなかった人々との縁が広がり、やがて富山・京都・東京の3都市の家族の運命が交錯する。

将来に対する不安や人の死に向き合いながらも、それぞれが自分の進むべき道を見つけ、前に向かって歩み始める。

『愛本橋』

黒部川中流に架かる「愛本橋」。かつては全長63mにも及ぶ^{ほねぼし}笈橋と呼ばれる橋脚の全くない木製の橋であり、山口県錦川の錦帯橋、山梨県桂川の猿橋と並び日本三奇橋の一つと言われていた。現在の橋は1969年の豪雨で流失したものを架け替えた鉄製の橋となり、長さ130mで元の位置より少し下流に移されている。小学校時代の1年間を富山県で過ごした宮本輝氏。山から海に向かって田園地帯をサイクリングした、当時の記憶とともに「田園発 港行き自転車」というタイトルが浮かんだと語る。愛本橋を眺めているうちに昔に見たゴッホの「星月夜」が思い出され、急遽作品に盛り込んだという。

(『zakzak』(夕刊フジ)2015.5.7 WEB掲載記事参考)



人生は不思議な縁で溢れている

意外な場所で友達に出会ったり、知らないうちに同じものを買っていたり、別の場所で同じことを考えていたり…普段の生活のなかに溢れている偶然や、何気ない出会い。気にも留めなかつた一つひとつの出来事に意味があり、それによって今の私がいる。読み終えた時、そんな気がしました。

Review